

生物多様性ながれやま戦略の改定方針について

1. 50年間戦略から見た今回の改定の位置づけ



2. 第三期策定のイメージ

第二期で重点プロジェクトとして掲げた重点地区・拠点の拡大について、中期段階の枠組みを持続しつつ50年間戦略の第三期目として、より実効性を重視した施策の推進を図りたい

3. 改定の視点

「重点地区・拠点」(モニタリング調査地)の整理



モニタリング調査の集計結果や拠点の特性、現状に合わせて「重点地区・拠点」の保全推進度クラス分けを実施する

4. 目的

- ・ 生物多様性を重視した環境保全という側面（科学的側面）と、区画整理や人口増加等で都市化が進む側面（社会的・経済的側面）のバランスを考慮した、流山市に合った保全を目指す必要がある。
- ・ 保全推進度を示すことで、市民の方々へ「重点地区・拠点」ごとの重要性、理解度、生物多様性の意識醸成を植え付ける。
- ・ 将来的な調査地の見直しの目安、調査回数の効率化を図る。

5. 手法

「重点地区・拠点」（モニタリング調査地）の整理

・追加地区→東深井地区公園（古墳公園）

※八木中学校の裏は重要拠点との意見があるため、現拠点「総合運動公園周辺」で調査を行う。



モニタリング調査の集計結果による「重点地区・拠点」の保全推進度クラス分け策定

→クラス分けの案は別紙参照

【クラス分け基準の評価ポイント】

保全性・・・希少種の種類数・総数、生物の種類数

担保性・・・各地区・拠点の市の資産的要素

制約度・・・各地区・拠点の管理責任の所在や取組みに対しての柔軟性

・クラス分けに応じて、年間の調査回数を調整する

→Aクラスは年3回、Bクラスは2回、Cクラスは1回など

・保全を優先的に行うべき地区を策定することで、各管轄組織との連携を具体的に進めやすい

→保全へ向けた取組みに優先順位をつける

・今回新たに追加する「東深井地区公園」は、調査結果を蓄積（※）し、クラス分けを行う。

→最大5年分で、振り分けるのに十分なデータ数が計上されれば都度振り分ける等